

# 鋼業 新規事業を本格稼働 日清 日清鋼業 お洒落コンテナハウス発売

縞鋼板に強みを持つ日清鋼業（名古屋市）が、鋼材加工技術を生かしたオリジナルコンテナハウス事業を本格稼働させた。9月からコンテナハウス「ISOL L（イソル）」の本格販売を開始し、リース事業も開始した。新規事業部門として昨春立ち上げた「NGL（NISSIN GROUP LABO）」の大型案件第1号をスタートさせた格好で、同社の濱田真帆副社長は「約1年半かけてようやく告知できるまでのラインにきた」と話す。月2〜3台ペースで生産・出荷していきたい考えだ。さまざまな用途での活用が見込まれるが、カフェなどの個人事業主などをターゲットに想定。開業に関する相談も受けられる体制もつくった。



本格発売した「ISOL L」

コンテナはカフェなど向けを想定した「CAFESTYLE-I-SOL L.01」と男の隠れ家をイメージした「Man's hideout STYLE-I-SOL.02」の2種類を用意。品質面にこだわって全て国内材を用いる。グループには名古屋の本社工場、清須工場（富士鋼業）、群馬県伊勢崎市の北関東工場（三鈴工業）、ベトナムの図面制作拠点があり、これら全拠点を活用して図面作成から加工・組立を行う。

「住宅レベルの断熱性能を実現」「錆に強く、風化しにくい」など。濱田副社長は「鋼材加工50年の信頼で築いた『こだわり抜いた上質な国産鉄』でつくっていい」と言う。重量やサイズにもこだわり、2・5ト弱と3ト弱の2タイプを用意。奥行2.8にして4トユニット車（クレーン車）で運搬できるようにした。新規事業として立ち上げたコンテナハウス事業の構想は、名古屋市主催の跡継ぎ向けベンチャープロジェクト「Nagoya Atotsugi Venture Project」が今年1月行った新規事業計画プレゼン大会で優勝した企画。すでにグランピング施設に納入実績もできた。濱田副社長は「我が社の持つリソースを全て活用した新規事業ということに意味がある。大量生産はできないが、より多くの場面で活用してもらいたい」と期待を込める。

【概況】機械構造用炭素鋼（SC）丸棒は流通の仲間向け需要の停滞や、在庫水準が高いことなどから累計トン7万円の値上げ達成に向けて逆風が吹いていたが、トヨタ自動車の下期支給材価格が上期比でトン4万円程度値上げとなることから流れが変わった。棒線の値上げ浸透完遂に大きなプラス要素となる見通しだ。すでに8月初めには大幅値上げの気配が特殊鋼業界に漂っていた。うまくいけば一部主力流通が唱える累計7万5千円値上げも10月初めには浸透し、相場19万円台が実現するかもしれない。

【需要】建産機需要はコマツや日立建機など大手はじめ、好調なユーザー関連は下期も安定的需要となるとみられている。大手流通は、こうした有力建産

## 〈SC丸棒/東京〉相場19万円台実現に弾み

市況の  
勤どころ

【供給】メーカーの受注状況には温度差が出る。建産機が主力の三菱製鋼などはある程度引き合いもあるとみられるが、高炉系や大同特殊鋼、愛知製鋼など自動車関連の多いところは部品メーカーの在庫調整の影響もあり、生産回復はゆっくりとしたものになる。半導体だけでなく、樹脂など部品の不足もあるためだ。よって生産の急激な増加には業界の中では懐疑的な見方もある。

【相場】ベース17万円、上値が17万5千円程度で、順調にいくば10月までには残りの2万円前後を値上げできそうだ。下期後半はどれだけ相場を維持できるかがカギになると見られる。主原料価格は変動しているものの、諸資材やエネルギーコストなど物価スライドで上昇した負担は重く、メーカーは今後も強気の対応を通すと見られる。流通としても相場形成に緊張感を維持し取り組む必要がある。